

休校になり、初めての課題提出日（１６日、１７日）でした。全校生徒 495 名全員の課題が提出されました。皆さんへの連絡が行き届いていてクラス毎の時間差登校の指示に従ってくれたおかげで、密集・密閉・密接を避けることが出来ました。郵送者は 20 名程度でした。感染防止の観点から郵送での提出でも構いません（電車利用者は 70 名余り）。

ところで、久しぶりに皆さんの元気な顔（マスク越しですが）が見られてとても嬉しかったです。この休校期間、まだ本校関係者からは感染者が出ていません。しかし、確実に新型コロナウイルスは猛威を振るい、いまだ収束の兆しが見えません。自分自身が感染しないためにも、身近な人に感染させないためにも、最大限の注意を払って生活してください。

課題についても、各教科の先生方から概ね良く取り組んでいるとのコメントを頂いています。先生方も皆さんと会えるのを楽しみに、教室も含め学校内の清掃活動に励んでいました。皆さんも課題に取り組みながら、勉強できる喜びを噛みしめていたことと思います。２・３年生は新クラスでの授業はまだなく、１年生は何も分からないままスタートし、心配ごとがたくさんあると思います。しかし、安心してください。担任の先生が温かく見守っています。再開した日にはキレイになった教室で皆さんをお待ちしています。

約２週間振りに制服に袖を通しどのような気持ちでしたか？休校中の心構えの中で、今この時にたくさんの事を考えましようと思えました。『学校とは？友達とは？先生とは？家族とは？』。当たり前が当たり前でなくなった現実を受け入れるのに時間が掛かりますが、これは長期戦になる見通しです。家庭での過ごし方を工夫し、色々なことを考えながら、次の課題に取り組ましよう。

ここで残念なことを伝えなくてはなりません。既に報道で聞いているとは思いますが、今年度の県総体が中止になりました。本当に様々な思いがあり、筆舌に尽くしがたいものがあります。ここに千葉日報（４月１９日付）の記事を紹介します。

ほとんどの３年生にとって県総体が高校最後の舞台となる。県総体を終え引退する生徒が大半を占め、競技を真剣に取り組める人生最後の機会にもなりえる。高校生活の中で部活に青春を注いできた生徒は多いはず。その努力を発揮できる集大成の場が事実上消えた。

「命を優先」と考えればやむを得ない状況。運営側も苦渋の決断だったろう。しかし３年生は何を思うだろうか？この日のためにつらい経験も乗り越え、時には我慢や犠牲も伴いながら最後の場を迎えるはずだった。休校や春の大会中止も続く中、最後の夏を信じ、できる努力を地道に重ねた生徒もいるだろう。

取材で携わる身として、毎年子どもたちの笑顔や涙、時には“奇跡”のシーンを目撃してきた。先輩から託された思いを胸に。悔しさをぶつけるために。支えてもらった人への恩返しのために。個々の思いがプレーや表情に現れていた。

苦楽を共にしてきた仲間や、恩師らと戦える最後の舞台でもある。インターハイ切符をつかめなくても、勝ち負けや成績以上に、３年生にとっては大きな意味を持つ大会だった。

県内はほぼ全ての高校で休業が続く。仲間と再び顔を合わせることなく、引退を余儀なくされる生徒もいるはずだ。我々の想像をはるかに超えるものが、高校の部活動を取り巻いている。

残された判断は高体連以外の大会になります。もし、開催されるなら全校生徒で全ての３年生のために全力で応援していきましょう。